

山本章夫「本草動植物写生図譜」に描かれた三重県未記録の魚類

木村清志¹

Author & Article Info

¹ 三重大学大学院生物資源学研究科 (津市)

kimura-s@bio.mie-u.ac.jp

Received 13 January 2024

Revised 24 January 2024

Accepted 24 January 2024

Published 25 January 2024

DOI 10.34583/ichthy.40.0_43

Seishi Kimura. 2024. Unrecorded fishes from Mie Prefecture depicted in Ayao Yamamoto's "Natural History Album of Animals and Plants". *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 40: 43–47.

Abstract

Ayao Yamamoto (1827–1903), a Confucian scholar and natural history artist in Kyoto, Japan, left a huge number of sketches of animals, plants and minerals, mainly painted at the end of the Edo period. These included a total of 363 sketches of fishes, of which 111 were thought to depict fishes caught in Mie Prefecture. All of the fishes found in those pictures were already recorded from Mie Prefecture except for the following three species: *Albula koreana* Kwun and Kim, 2011, *Sillago parvisquamis* Gill, 1861 and *Upeneus quadrilineatus* Cheng and Wang, 1963. These were identified based on their body shape and coloration in fresh condition. The painting of *S. parvisquamis* may serve as a concrete record that this species used to inhabit the coast of Ise Bay in Mie prefecture and that of *U. quadrilineatus* may be the northernmost and easternmost record of the species.

京都の儒学者で本草博物画家である山本章夫氏（やまもと あやお, 1827–1903）は主として江戸時代末期に描いた膨大な数の動植物および鉱物の写生図を残している。これらは現在「本草動植物写生図譜」1,390画、および「溪山写生」581画として整理され、京都府立京都学・歴彩館に寄託されている（松田・木村, 2023）。これらには合計363画の魚類写生画が含まれており、この「本草動植物写生図譜」と「溪山写生」に関する情報やこれらに描かれた魚類の同定については松田・木村（2023）が詳細に記載した。また、「本草動植物写生図譜」に描かれた魚類312画のうち207画については、上野・北村（1982, 1983）によって複製され、阿部宗明氏による同定と解説が記された。

この写生画に描かれた魚類はほとんどの場合その産地

が記されていない。しかし、約2/3弱の写生画にはその魚名方言と地域名が記されている。このうち108画には方言の地域名として「勢州」と記され（Fig. 1B, C）、また勢州産と記された写生画（Fig. 1A）が2画、三重県の県庁所在地である津市の古名である「洞津」と記された写生画が1画ある。これらの地域名をその魚の産地であるとした（松田・木村, 2023）。「勢州」は伊勢国であり、現在の三重県北中部、および鳥羽市と志摩市の大部分を除いた伊勢志摩地方であることから、この111画は三重県産の魚類を描いたものと考えた（松田・木村, 2023）。なお、「本草動植物写生図譜」や「溪山写生」の魚類図については、それぞれの図を識別するために個別の番号が付けられた（松田・木村, 2023）。本論文でもそれぞれの図を示すのにこの番号を用いる。また三重県産魚類の記録については三重大学大学院生物資源学研究科魚類標本（FRLM）を利用した。

「本草動植物写生図譜」と「溪山写生」に描かれた三重県産と考えられる魚類のほとんどすべての種は上記の三重県産魚類標本に含まれている。しかし、以下に述べる3種はこれまで三重県から標本や写真の記録がなかったため、ここで紹介する。

Albula koreana* Kwun and Kim, 2011*キスジソトイワシ (Fig. 2)**

図番号402-08-38 (Fig. 2) に描かれた魚類は全体に細長い体型、長く尖った吻、背鰭や臀鰭、腹鰭の位置、深く二又した尾鰭、および体全体が小鱗で覆われることなどから、ソトイワシ属 *Albula* Scopoli, 1777 と判断できる（Hidaka et al., 2008）。さらに、この絵では上顎後端から前鰓蓋骨後縁付近にかけて黄色帯が描かれている。この特徴はキスジソトイワシ *Albula koreana* Kwun and Kim, 2011 の識別的特徴である（Matsunuma et al., 2022）。この絵には「勢州産 未詳海産魚」との説明が付されている（Fig. 1A）。ソトイワシ属魚類は、三重県ではソトイワシ *Albula argentea* (Forster, 1801) (Fig. 3) 1種のみが記録されている（本研究）。ソトイワシは下顎後端から後方に伸びる黄色線が眼の直下あ

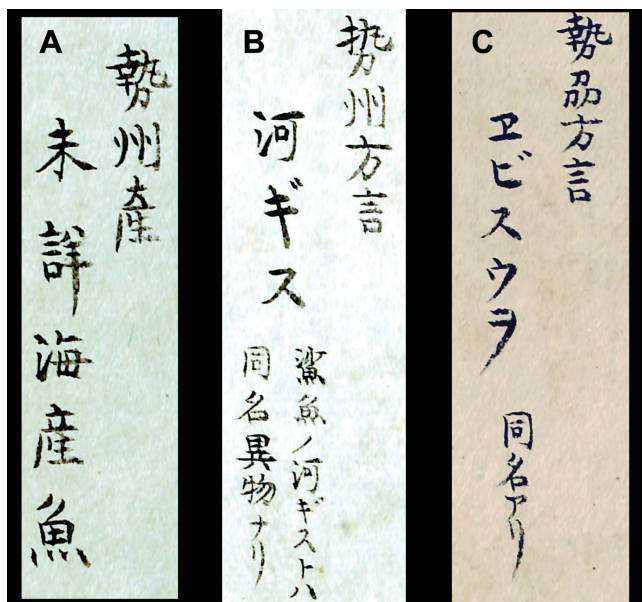


Fig. 1. Captions of Ayao Yamamoto's paintings numbered 402-08-38 (A), 402-08-33 (B) and 402-05-11 (C). A means "Unidentified marine fish caught from Ise Province (northern and central Mie Prefecture and Ise-Shima region)"; B Local name in Ise Province "Kawagisu (kawa = river, gisu = kisu = sillago), different from gobiid fishes with the same name; C Local name in Ise Province "Ebisu-uo (Ebisu = the name of god, uo = fish), there being fish(es) with the same name.

るいは直後まで、前鰓蓋骨後縁まで伸長しない (Fig. 3; Matsunuma et al., 2022). このようなことから、この絵の魚類はキスジソトイワシと同定した。

Sillago parvisquamis Gill, 1861

アオギス (Fig. 4)

図番号 402-08-33 (Fig. 4) に描かれた魚類はその体形から明らかにキス科 Sillaginidae Richardson, 1846 であると判断できる (McKay, 1992; 中坊, 2013). 頭部や体は背側面が淡褐色、腹側面は白色で、体側面に明瞭な斑紋や縦線あるいは縦帯は描かれていない. 第1, 第2背鰭の鰭膜に明瞭な黒点をもち、臀鰭前部と腹鰭は黄色. この特徴はアオギス *Sillago parvisquamis* Gill, 1861 とよく一致する (Sano and Mochizuki, 1984). 同属のモトギス *Sillago sihama* (Forsskål, 1775) も臀鰭前部と腹鰭が黄色く、第2背鰭に黒点列をもつ (Fig. 5). しかし、モトギス第2背鰭の黒点は不明瞭で、明瞭な黒点をもつアオギスとの区別点となっている (林・萩原, 2013). なお、この両種は第1背鰭の棘数や側線鱗数で区別できるが (McKay, 1992; 林・萩原, 2013), 残念ながら山本章夫氏の絵は鰭条数や鱗数については正確に描かれていないことから、計数形質を用いて同定することは不可能であった. ホシギス *Sillago aeolus* Jordan and Evermann, 1902 も第2背鰭に明瞭な黒点列をもつが、体側に明瞭な暗色斑紋があり、明らかに Fig. 4 に描かれた種とは異なっている (McKay, 1992; 林・萩原, 2013). アオギスの近縁種である *Sillago sinica* Gao and Xue, 2011 も第1, 第2背鰭に黒点列をもち腹鰭や臀鰭が黄色いが、尾鰭背腹両縁が明瞭に黒く (Gao et al., 2011), Fig. 4

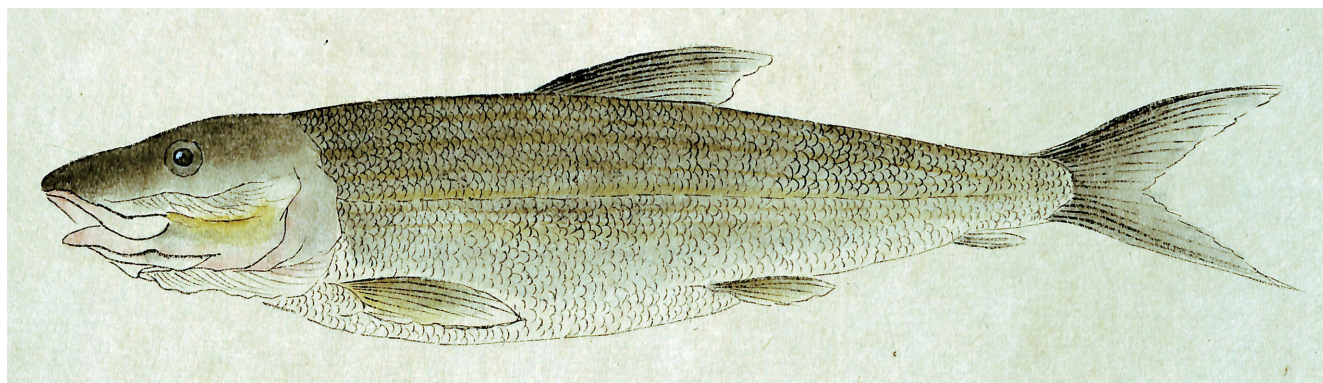


Fig. 2. Ayao Yamamoto's painting of *Albula koreana* caught from Mie Prefecture (No. 402-08-38).



Fig. 3. *Albula argentea*, FRLM 61749, 406 mm SL, collected from Owase, Mie Prefecture.

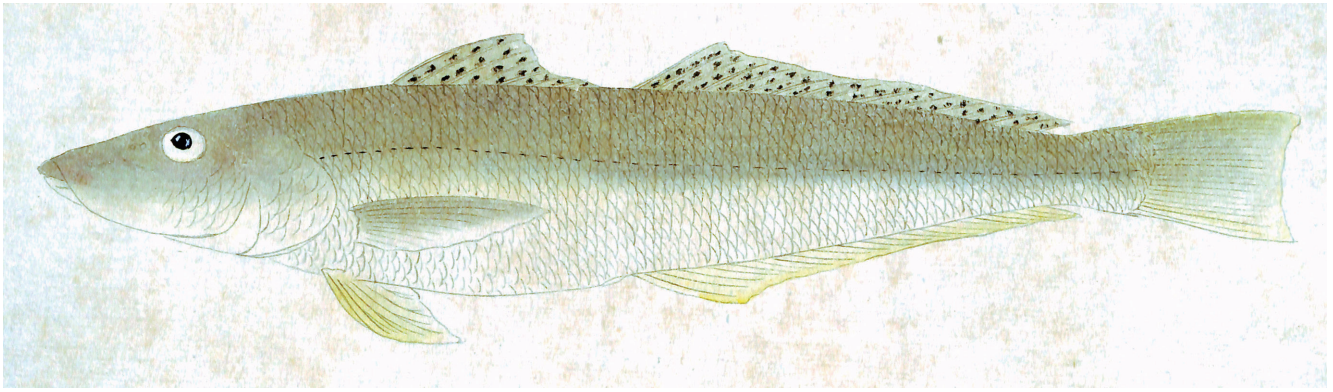


Fig. 4. Ayao Yamamoto's painting of *Sillago parvisquamis* caught from Mie Prefecture (No. 402-08-33).

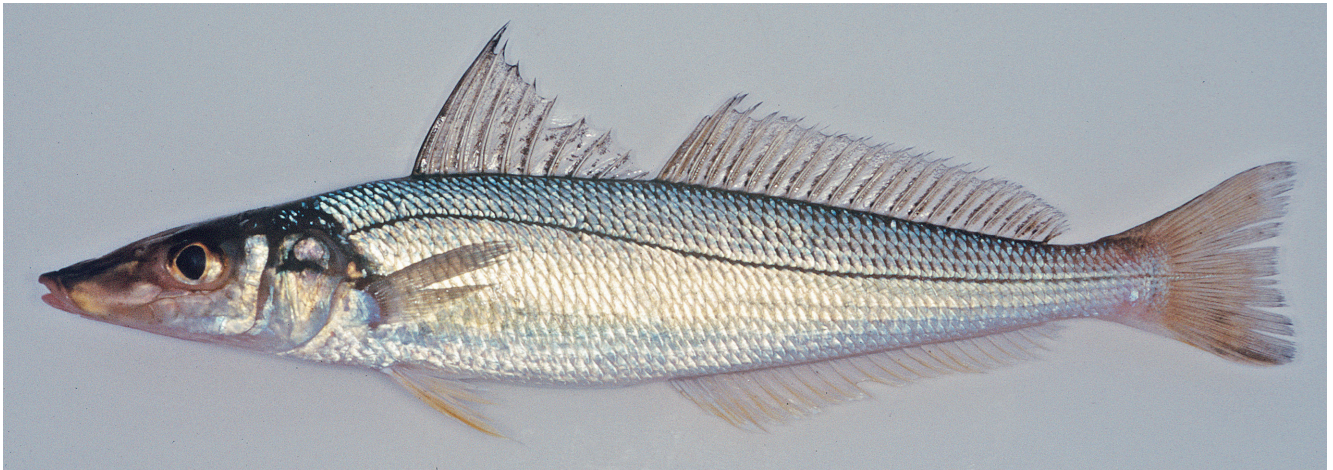


Fig. 5. *Sillago sihama*, FRLM 12963, 214 mm SL, collected at the mouth of the Nakara River, Iriomote Island, Okinawa Prefecture.

に描かれた種とは異なっている。これらのことから、このキス科魚類をアオギスと同定した。

この絵には「勢州方言 河ギス 鯊魚の河ギストハ同名異物ナリ」(Fig. 1B)との説明が付けられている。「かわぎす」はこの説明にあるようにハゼ科魚類数種の地方名でもあるが(日本魚類学会, 1981), 小西(1985)によると山口県や九州ではアオギスを「かわぎす」と呼ぶことが多いとしている。このことから三重県でもアオギスを「かわぎす」と呼んでいたと考えられる。

アオギスについて, 望月(1985)は昭和30年代(1955–1964)までは東京湾, 伊勢湾, 紀ノ川河口などにも生息していたが絶滅したと述べている。また, 林・萩原(2013)は吉野川河口でも絶滅した可能性が高いとし, 上城・岩坪(2022)は加世田や笠沙(南さつま市)でも近年は採集記録がないと記している。最近では瀬戸内海西部の山口県や福岡県, 大分県からの報告しかなく(小西, 2007; 重田, 2015), 本種は絶滅危惧IA類に指定されている(環境省, 2020)。絶滅したと考えられている東京湾や和歌山県和歌浦(紀ノ川河口), 吉野川河口, 鹿児島県吹上浜では過去に採集された標本が残されており(重田, 2015), 実際にこの場所で本種が生息していた具体的な証拠が存在するが, 伊勢湾からの標本や科学的な記録は残されていない。このことから, 図番号402-08-33(Fig. 4)に描かれたアオ

ギスは, 本種が内湾の河口や干潟などに生息する(望月, 1985; 重田, 2015)との習性から, 熊野灘ではなく河口干潟が発達している伊勢湾で採集された個体を描いたものと考えられ, 伊勢湾での本種の具体的な記録となると考えられる。

***Upeneus quadrilineatus* Cheng and Wang, 1963** **ヨスジヒメジ (Fig. 6)**

図番号402-05-11(Fig. 6)に描かれた魚類は下顎にひげをもち, 背鰭は2基でそれぞれ基底は短いなど, その体型からヒメジ科Mullidae Rafinesque, 1815と認められる(Carpenter, 1999; 中坊, 2013)。体の背側面は赤みを帯び, 腹側面は白色, 背側面に暗赤色の細い縦帯を2本, ほぼ体側中央と腹側面に橙黄色の縦帯を1本ずつもつ。第1背鰭には暗色の2縦帯があり, 先端は黒い。第2背鰭, 尾鰭上葉にも暗色縦帯がある。尾鰭下葉に暗色縦帯はなく, ほぼ一様に暗色。胸鰭は淡赤色, 腹鰭と臀鰭はわずかに黄色みを帯びる。このような体側および鰭の色彩はヨスジヒメジ *Upeneus quadrilineatus* Cheng and Wang, 1963に一致する(波戸岡・土居内, 2013; 萬代ほか, 2018)。尾鰭上葉に明瞭な暗色帯をもち, 下葉に暗色帯がないか不明瞭である日本産ヒメジ科魚類にはヨスジヒメジのほか, アカネヒメ

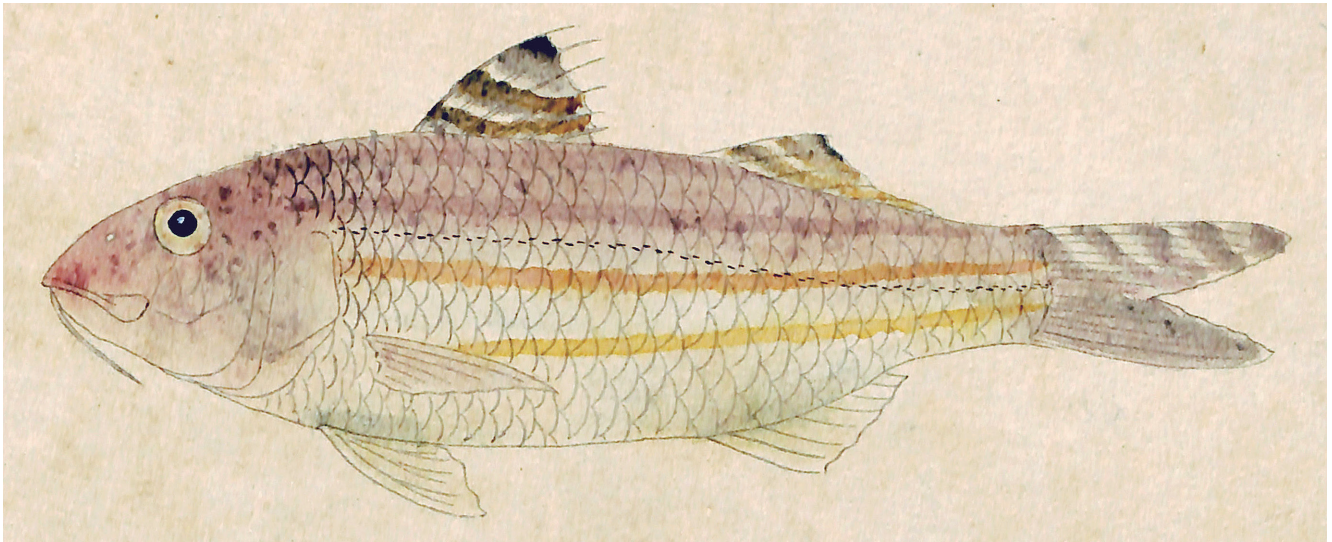


Fig. 6. Ayao Yamamoto's painting of *Upeneus quadrilineatus* caught from Mie Prefecture (No. 402-05-11).

ジ *Upeneus guttatus* (Day, 1868) やヒメジ *Upeneus japonicus* (Houttuyn, 1782), キスジヒメジ *Upeneus moluccensis* (Bleeker, 1855) が知られているが、前2種では体側に明瞭な縦帯はなく、キスジヒメジでは体側中線の情報に鮮明な黄色縦帯をもつ。また体側に複数の黄色あるいは橙黄色の細かい縦線をもつ日本産ヒメジ科魚類にはヨスジヒメジのほか、コハクヒメジ *Upeneus sulphureus* Cuvier, 1829 やシロガネヒメジ *Upeneus taeniopterus* Cuvier, 1829, ミナミヒメジ *Upeneus vittatus* (Forsskål, 1775) がある。しかし、コハクヒメジは尾鰭上葉に暗色帯がなく、後2種では尾鰭下葉に明瞭な暗色帯をもつ。これらのことから、図番号 402-05-11 (Fig. 6) に描かれたヒメジ科魚類はヨスジヒメジと同定できる。

ヨスジヒメジは国内ではこれまで沖縄島、奄美大島、種子島、薩摩半島西岸沖、土佐湾、和歌山県みなべ町から記録されている (萬代ほか, 2018)。ここで紹介したヒメジ科魚類が三重県北中部あるいは伊勢志摩地方で採集されたヨスジヒメジであるとする、本種の北限および東限記録となる。なお池田・中坊 (2015) によると、本種は和歌山県でも稀種であると記されている。

謝 辞

山本章夫氏による「本草動植物写生図譜」に関するさまざまな情報を頂戴し、またこの図譜の閲覧、撮影に際し多大な協力を得た京都大学の松田 清氏、「本草動植物写生図譜」に関係して、松田氏を紹介していただいた香川大学の滝川祐子氏、本図譜の閲覧、撮影に便宜を図っていただいた京都府立京都学・歴史館の山本 琢氏と岡本隆明氏、および本図譜の掲載を許可していただいた中井立美氏に対して、深甚の謝意を表す。

引用文献

- 萬代あゆみ・伊東正英・高山真由美・本村浩之. 2018. 鹿児島県本土と大隅諸島から初めて記録されたヒメジ科魚類ヨスジヒメジ. *Nature of Kagoshima*, 44: 321–325. [URL](#)
- Carpenter, K. 1999. Bony fishes—Guide to orders and families, pp. 1548–1618. In Carpenter, K. E. and V. H. Niem (eds.) *FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the Western Central Pacific. Volume 3. Batoid fishes, chimaeras and bony fishes part 1 (Elopidae to Linophrynidae)*. FAO, Rome.
- Gao, T.-X., D.-P. Ji, Y.-S. Xiao, T.-Q. Xue, T. Yanagimoto and T. Setoguma. 2011. Description and DNA barcoding of a new *Sillago* species, *Sillago sinica* (Perciformes: Sillaginidae), from coastal waters of China. *Zoological Studies*, 50: 254–263. [URL](#)
- 波戸岡清峰・土居内 龍. 2013. ヒメジ科, pp. 976–982, 2018–2020. 中坊徹次 (編) *日本産魚類検索 全種の同定*. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 林 公義・萩原清司. 2013. キス科, pp. 974–975, 2017–2018. 中坊徹次 (編) *日本産魚類検索 全種の同定*. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 池田博美・中坊徹次. 2015. 南日本太平洋沿岸の魚類. 東海大学出版部, 秦野. 597 pp.
- 環境省. 2020. 環境省レッドリスト 2020. [URL](#) (2 Jan. 2024)
- 小西英人. 1985. アオギス, p. 62. 小西和人 (編) *さかな大図鑑. 週間釣りサンデー*. 大阪.
- 小西英人. 2007. 釣り人のための遊遊さかな大図鑑—釣魚写真大全. エンターブレイン, 東京. 399 pp.
- 松田 清・木村清志. 2023. 山本讀書室資料の山本章夫筆魚類図—伊勢国魚類写生図を中心の一. *近世京都*, 6: 100–119 (逆丁), 写真1–4. [URL](#)
- Matsunuma, M., N. Nagaya, K. Hidaka and Y. Kai. 2022. Taxonomic reassessment of *Albula* (Albuliformes: Albulidae) from Japan and adjacent waters with reliable records of *Albula argentea*, *A. koreana* and *A. oligolepis* from Japan. *Species Diversity*, 27: 259–277. [URL](#)
- McKay, R. J. 1992. *FAO species catalogue. Vol. 14. Sillaginid fishes of the world. (Family Sillaginidae). An annotated and illustrated catalogue of the sillago, smelt or Indo-Pacific whiting species known to date*. FAO, Rome. vi + 87 pp. [URL](#)
- 望月賢二. 1985. アオギス, p. 62. 小西和人 (編) *さかな大図鑑. 週間釣りサンデー*. 大阪.
- 日本魚類学会 (編). 1981. *日本産魚名大辞典*. 三省堂, 東京. ii + ii + i + vii + 834.
- 中坊徹次. 2013. 科の検索, pp. 33–137. 中坊徹次 (編) *日本産魚類検索 全種の同定*. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- Sano, M. and K. Mochizuki. 1984. A revision of the Japanese sillaginid fishes. *Japanese Journal of Ichthyology*, 31: 136–149. [URL](#)

重田利拓. 2015. アオギス, p. 84. 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 (編) レッドデータブック 2014 —日本の絶滅の恐れのある野生生物— 4 汽水・淡水魚類. ぎょうせい, 東京.

上城拓也・岩坪洗樹. 2022. キス科, p. 150. 岩坪洗樹・伊藤正英・山田守彦・本村浩之 (編) 薩摩半島沿岸の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.

上野益三・北村四郎 (監修). 1982. 本草写生図譜 第6巻. 魚 I. 雄渾社, 京都. v + 129 + vi pp., 129 pls.

上野益三・北村四郎 (監修). 1983. 本草写生図譜 第7巻. 魚 II, 亀・トカゲ・サンショウウオ. 雄渾社, 京都. ii + 91 + iv pp., 91 pls.